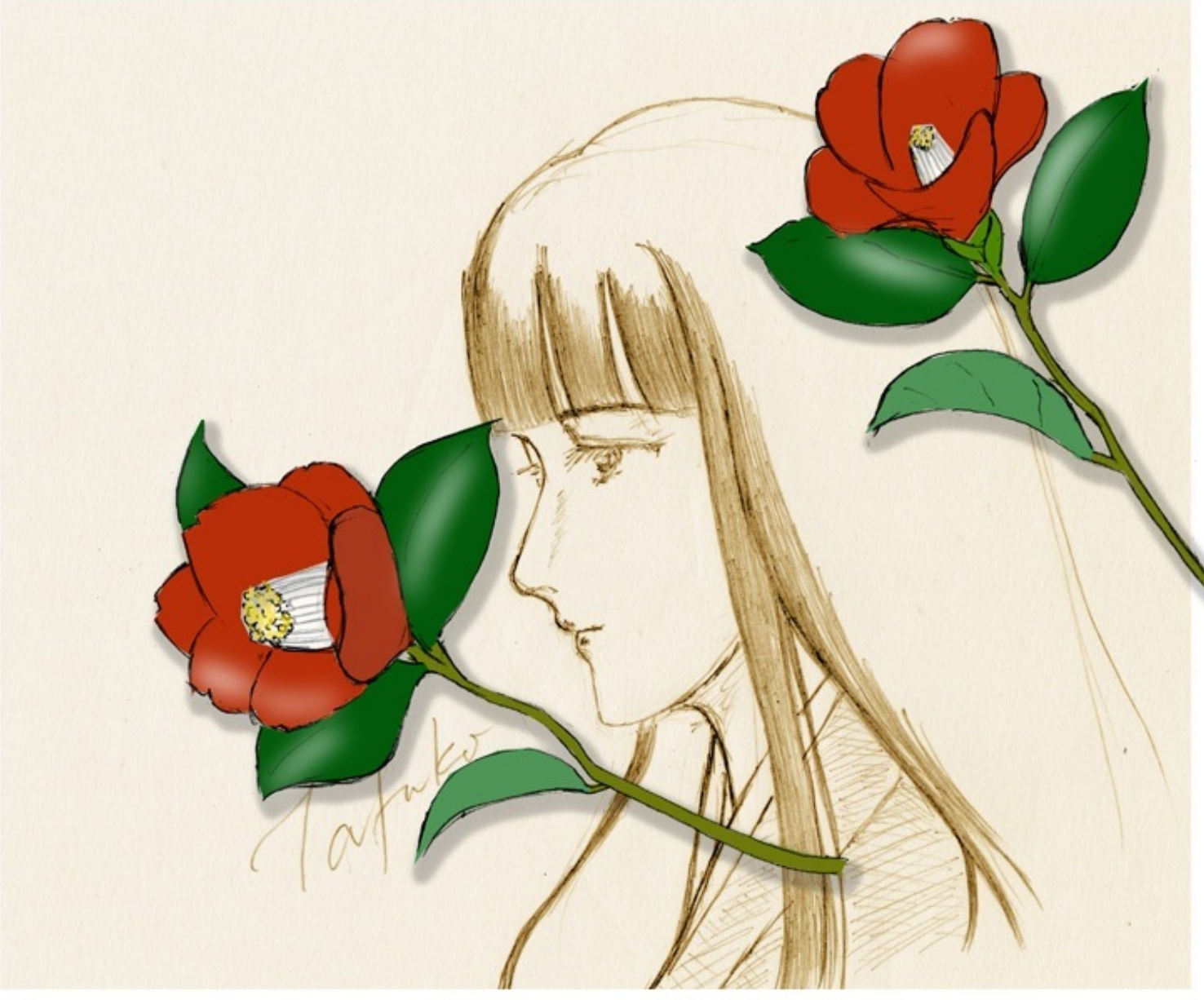
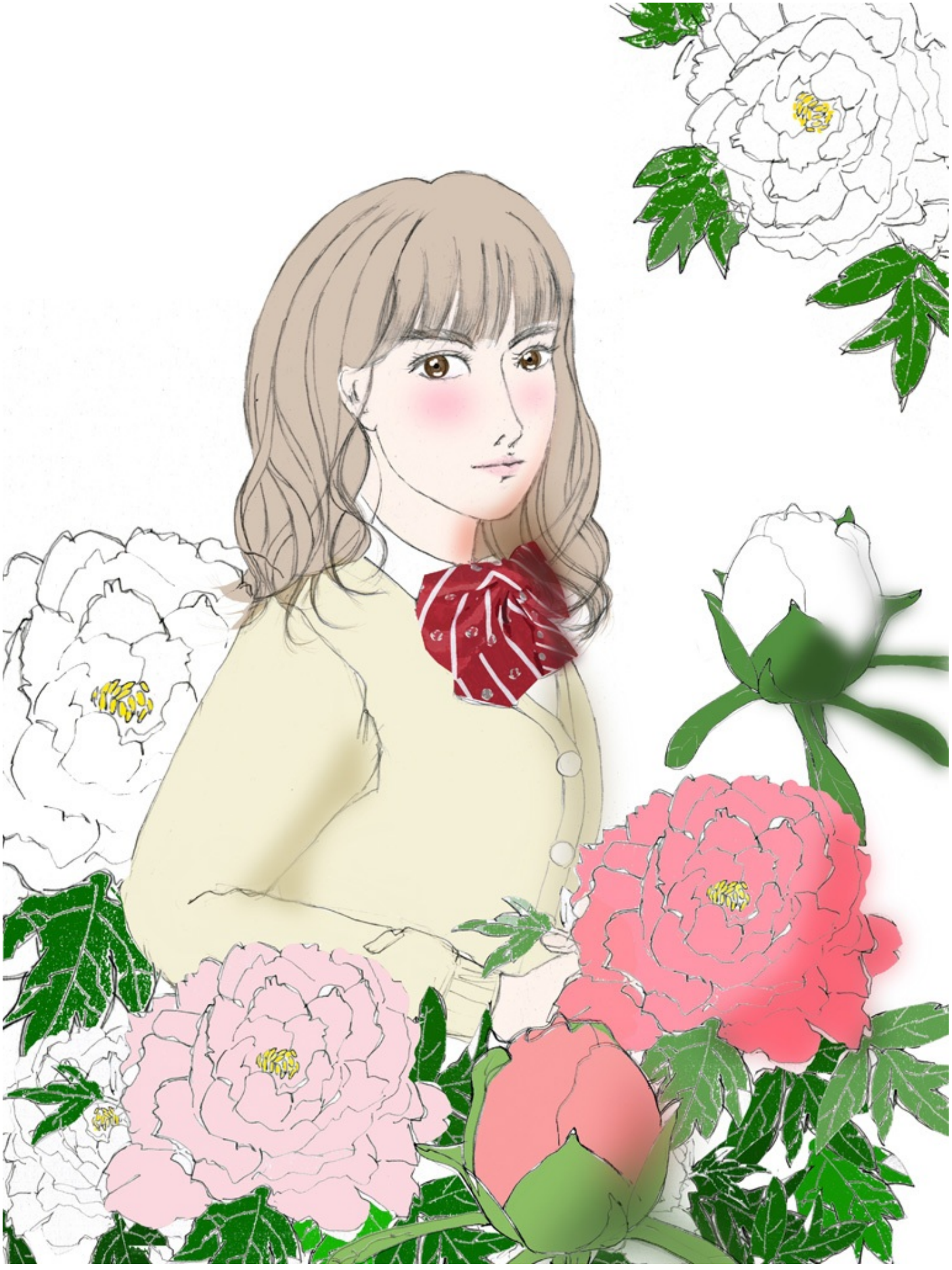
「僕と彼女の表紙画集」



真下 魚名

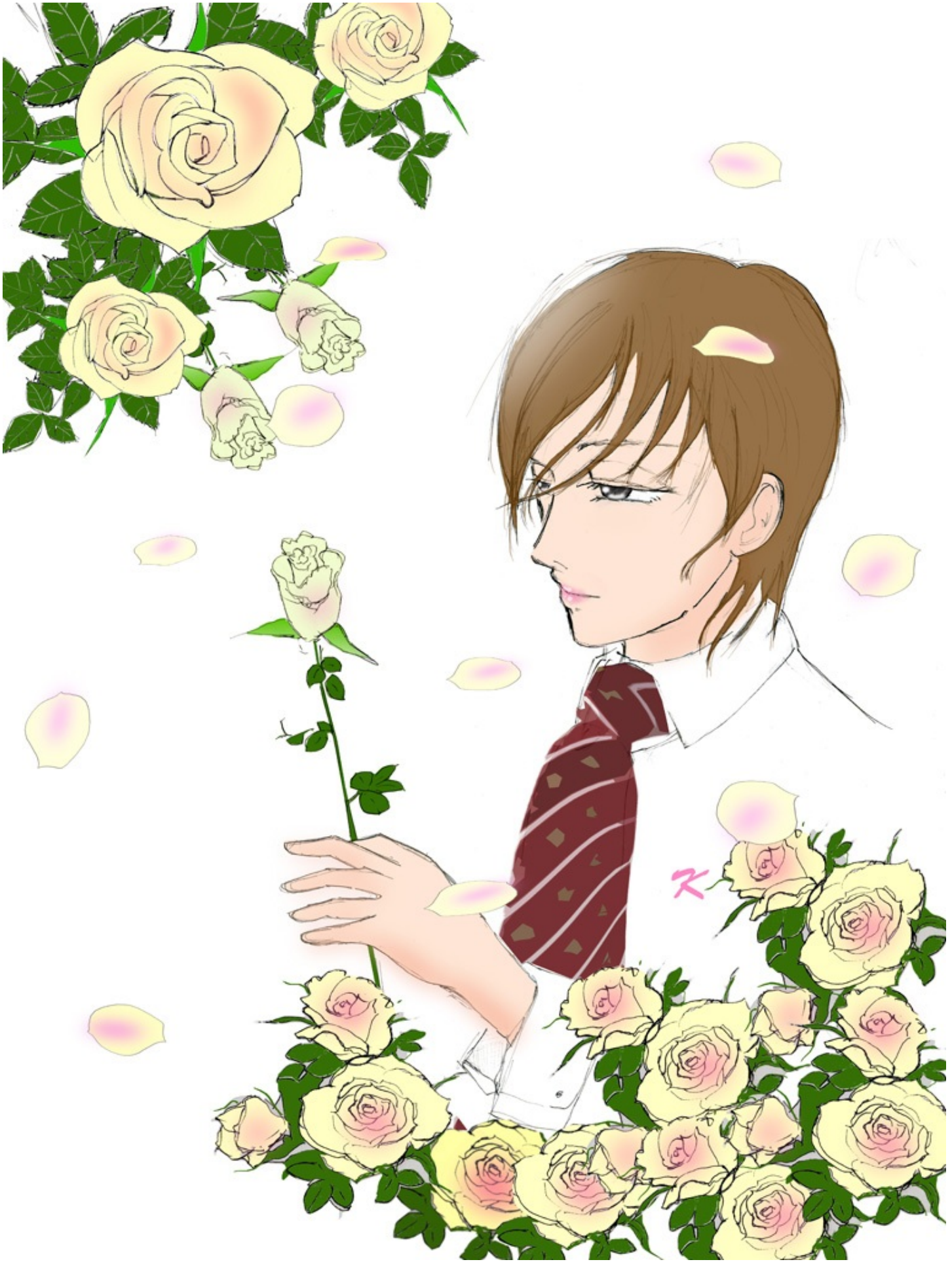
木蓮

木蓮　ー 上叢 千冬 ー



牡丹　― 丘野 瑞江 ―

睡蓮　ー 大沢　蓮 ー



薔薇　ー 丘野 満ちる ー

鬼百合　― 相沢 藍理 ―

土耳古桔梗　ー 真木 あやね ー

木春菊　ー 久坂 比呂 ー

燕子花　― 扶由姫 ―

あとがき

　僕カノシリーズをご愛読いただき、ありがとうございます。

　毎週、土曜日と日曜日の間の深夜＋１の時間を締め切りにして公開しています。
なので、もう土曜日は大変です。
表紙絵を描いて、炊事、洗濯、掃除、買い物、文章のチェック、etc．．．．

　翌朝までに、たくさんの方の閲覧をいただいているようで、それを励みに続けてきました。

　さて、次回は「僕と、彼女のアリア」という題名で現在執筆中ですが（2011.11時点）
本業の方が忙しくて、どうにも滞りがちになっています・・・いろいろ、体調崩したりして
半年以上、止まってました。

　もうプロットは定まっていて、後は文字に落として行くだけなんですが、今ぽつぽつと書いていて
次に公開出来るのは、年が明けて２月頃かなあと考えています。

よろしれば、、、なんてことはいいません。
是非とも、それまで待っててくださいねー。

　では、本シリーズの主演女優　中森千冬さんに登場していただきましょう。

「こんばんわ。」
どうも、おつかれさまです。

「もうかれこれ、４年ですよね。」
こんなに長くなるとは思ってませんでした。中学生が卒業して高校生になる年月ですから。

「どうして、私はモクレンなんですか？」
モクレン好きなんですよ。

「地味すぎません？」
地味かなあ。白くて清楚な感じがいいじゃないですか。

「そういう役どころかとおもってたのに、どんどんわがままな、やな女になってくし。」

書いてるワタクシも意外でした。
どっちかというと、瑞江がそっち方向かなあと思ってたんですが。

「出番も減っているような。」
登場人物増えて来たからな。

「私のイメージって、ああいうかんじなんですか。ストレートでロング。
　まあ、転校生の定番と言えなくもないですけどね。」
はい。一度は描いてみたい人物像ではあります。
でも、髪をサイドで分けるのって、直前に決めたりしました。

「で、次は来年の２月？」
はい。千冬さんの出番も多いです。

「いいんですか、２月とか言っちゃって。」
うーん。まあ、自分にプレッシャーかけないと、、、めげそうになるときもあるので。

「じゃあ、それまでは休載ですか。」
いえ、別のを用意してます。

「どんな？」
”黄昏の王国”という作品です。
中世のヨーロッパとアジアの中間に、架空の国を作りました。
その国の、権力争いや戦争の物語です。

「魔法使いとか妖精とか。」
一切出てきません（笑）。
「また、きっぱりと（笑）。」
魔法とかって、突き詰めると結局個人の戦いになっちゃうんですよ。
剣と剣の戦いも。

でも、歴史って多くの人物がかかわり合った結果として綴られるものなんです。
王様もいるだろうし、農夫もいる。
でも、王様がどんなに強くても、時代が求めない限り、歴史は動かないですからね。

「魔法使い、嫌いなんですか？」
嫌いという訳じゃないですけど、一時期、何でもかんでも魔法使い、

みたいな時代があって、そういうのは嫌だな、と思って書いた物語でもあるので。
本当の奇跡って、人間が起こすものですから。

「私の出番は。」
無いです。金髪、巻き毛に染める気があったら出してもいいですけど。

「遠慮しときます。次の出番、早く書いてくださいね。」

と、いうわけで、次週からは
「黄昏の王国」を公開して参ります。

みなさまよろしくお願いします。

僕と彼女の足跡

「僕が彼女に殺された理由（わけ）」

「僕と彼女の選択の事由（わけ）」

「僕と彼女はそれしか答えを見つけられなかった。」

「僕と彼女はそれでも答えを探し続ける」

「僕と彼女と複雑な関係者たち」

「僕と彼女と単純な関係式」

「僕と彼女と校庭で」

「僕と彼女と校庭で　夏」

「僕と、彼女のアリア」（次回）